

問題1	<p>（食をめぐる社会史・文化人類学的論考文の総合的読解）</p> <p>本問は、砂糖をめぐる生産と消費の歴史を題材とした文化人類学的論考文を用い、社会的・歴史的の事象を複眼的に捉える思考力を測ることを目的としている。</p> <p>本文では、シドニー・W・ミンツの研究を軸に、</p> <ul style="list-style-type: none">● 砂糖が奢侈品から必需品へと変化した歴史的過程● 植民地支配・奴隷制・産業革命と食生活との関係● 生産地と消費地を分断せずに捉える視点● マクロな政治経済構造とミクロな日常生活の意味世界との連関 <p>が、段階的かつ理論的に論じられている。</p> <p>設問では、</p> <ul style="list-style-type: none">● 語句や表現の文脈に即した意味理解● 抽象概念（生産と消費、意味、力、商品連鎖など）の把握● 比喻表現や概念説明（「多重焦点レンズ」など）の理解● 筆者が示す分析方法とその意義の読み取り● 文章全体の構成と論理展開の把握 <p>を通して、文章を断片的に処理するのではなく、理論全体として統合的に理解できているかを問うている。</p> <p>また、砂糖という身近な食品を扱いながら、その背後にある権力構造や社会変動を読み解く内容であることから、具体例と抽象的議論との関係を行き来しながら理解する力が求められている。</p>
-----	---